

知識科学系セミナー

テーマ

「芸術と科学との接点 -源氏絵研究におけるAIとVRの活用-」

講演者： 東京工業大学情報理工学院

教授 小長谷 明彦 氏

日時： 令和元年9月27日(金)15:20~17:00

場所： 知識科学系Ⅲ棟6階コラボ（3）

講演要旨：

芸術分野においてもデジタル化の流れが急速に高まりつつあり、AIやVRなどのIT技術の活用が文化財保護、デジタルミュージアム、AIアートなど様々な分野で模索されている。一方、美術史および美術館関係者においては保守的な考え方が主流であり、先端的IT技術に対する期待感はあるものの、表層的なIT技術の活用には批判的意見も多く、実運用は極めて限定的である。本講演では、美術史研究者との共同研究である、「深層学習による源氏絵の流派の推定」および「VRを用いた灯明で見る源氏物語図屏風」制作の経験から、美術品に対して何を人は知りたいと思うのか、何が人を感動させるのかについて私見を述べる。



「VR灯明で見る源氏物語図屏風」

制作：東京工業大学 小長谷明彦研究室

恵泉女学園大学 稲本万里子研究室

科研費基盤(B)「オントロジーに基づく源氏絵データベースを共有・活用した源氏絵の総合研究」(研究代表者：恵泉女学園大学 稲本万里子, 2017-2021年度)にて開発。VR版は京都文化博物館記念講演会(2019年9月1日)及び国際博物館会議京都大会(ICOM KYOTO 2019)東京富士美術館ブースにて展示。ディスプレイ版は京都文化博物館 ICOM 京都大会開催記念東京富士美術館所蔵百花繚乱 ニッポン×ビジュツ展(2019年8月25日(日)~9月29日(日))にて展示。

講演者略歴：

昭和55年3月東京工業大学大学院修士課程を修了、同年日本電気株式会社に入社、平成7年2月に東京工業大学より博士(工学)を取得。平成9年10月より、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科教授に就任。平成15年4月より、理研GSCゲノム情報科学研究グループプロジェクトディレクターおよび東京工業大学計算工学専攻客員教授に就任。平成17年4月理研GSCゲノム情報先端技術研究グループプロジェクトディレクター、平成21年4月東京医科歯科大学情報医科学センター特任教授を経て、同年10月東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻教授、平成28年4月情報理工学院情報工学系教授となり、知能情報コースを担当。

お問合せ先：知識科学系 教授 藤波 努 (Email: fuji)